

(様式3)

事業所名 グループホーム風薫

ユニット名 東雲棟・茜棟

作成日: 令和 6 年 9 月 30 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	7	・定期的な研修や「虐待防止チェックリスト」を実施し、職員自身のケアの振り返りをしているが、一部の職員に職員都合のケアや不適切な言葉の対応がある。	・全職員が同じ解釈において同方向を向き、ご利用者本位のケアを尊敬の念を持って支援する。	・引き続き定期的な研修や「虐待防止チェックリスト」を実施する。その中で何が不適切に当たるのかを具体的に提示し、改善・適正なケアになるように繰り返し学習していく。	3ヶ月
2	18 ・48	・ご利用者お一人おひとりの習慣を尊重した生活をベースにと努めているが、全ご利用者の方への提供に至っていない。時に集団生活の色が濃くなってしまったり、ご本人ができる事さえも職員都合で職員がしてしまう事がある。	・ご利用者個々の習慣や好み、できる事の見極めを再度行い、一人として取りこぼさない細やかな支援をする。	・過去の情報や日常でのご利用者との会話から導き出し、その方の現状に即したやりがいの持てる仕事への協力やレクリエーション活動等の余暇活動を提供する。	6ヶ月
3	10	・毎月のお便りや来訪時等でのご家族との交流時に近況報告をしているが、お便りは施設側からの一方的な報告のみとなっている。また、ご家族の来訪頻度には差があり、交流内容に偏りが出てしまっている。	・ご利用者、ご家族の思い・意見(意向)を受け止めて、日々の支援につなげる。	・ご家族との電話や来訪時等で直接会える時には、必ず近況報告をし、今の気持ちや意向確認を行い、職員間で情報の共有を図る。年に1回は〇式のアンケート等を実施し、忙しいご家族でも回答のしやすい工夫を行い、寄り添う支援の反映に努める。	12ヶ月
4	29	・ コロナ禍、渦中よりは少しずつ外出の機会も増えてきてはいるが、ボランティア来訪が少なく以前のような活気ある生活に戻っていない(法人指針として飲食の伴うボランティア交流は未だに禁止)。	・ご利用者個々の意向・思いの実現に着目し、行きたい所に行く支援や外部ボランティアの方々との交流等、地域とつながることで活気ある生活を送る。	・ご利用者、ご家族の思いの実現を一緒に行う。 ・コロナ禍以前に関わりのあったボランティアの方々に声をかけ交流の機会を増やしていく。	12ヶ月
5	12	・慢性的な人員不足が続いており、余裕のある勤務体制が作れない現状、研修参加の機会やご利用者への支援にも少なからず悪影響が発生している。	・人員の定着及びやりがいのある職場の環境を作るために、業務改善等に努める。	・引き続き法人上長に人員確保を要請していく。 ・現状の中では、職員が平等に働く環境が整うように協力し合い、業務の工夫を怠らないようにする。	15ヶ月